



『小諸を選んだ理由』

諸 区 河原^{かわまろ} 茂^{しげる}さん



「小諸が気に入りました。移り住みました」とおっしゃる河原茂さん（80歳）。小諸のどんなところが気に入ったのか興味があり、お話を伺いました。河原さんが生まれ育ったのは京都市。東京の企業に就職されてからは関東地域を中心に、転勤をされていました。平成10年に新工場の設立に

伴い佐久市に赴任されましたが職場は佐久市でも住むのは小諸と思っていたそうです。学生時代は山岳部員として、度々長野県を訪れ、小諸は山が近く自然環境に恵まれていることを知っていました。仕事で信越線を利用する時は、小諸駅のホームにあった立ち食いそばを楽しんでいました。町並みを見ると、昔ながらのたたずまいが残り、人通りが少なく、地元の人はいさびれた町」というがその静かな雰囲気がとても気に入りました。さらに、小諸に永住しようと決心した理由があります。それは、最初に住んだ紺屋町でのこと。知り合いがいない町に移り住み、奥様は家に引きこもった生活をしていました。そんな時、ご近所の方々が声をかけてくださり、地域の行事に参加するように



140坪の畑で野菜を育てています

なりました。初めて体験する田舎の行事も楽しく、次第に仲間が増え活動の場を広げました。また、河原さんは引越された年からご近所の方の紹介で畑を借り念願の家庭菜園を始めました。紺屋町でご近所の方々の親切に触れ、ますます小諸が気に入りました。紺屋町で2年間生活した後、現在の諸に新居を構えました。小諸に移り住み19年。「小諸に来て人間関係でいやな思いをしたことが無い。」という奥様のお話が印象に残りました。「自分が変わらなければ人は変わらない」をモットーに定年退職後は『水明の縁側』をはじめ、地域、人と人の絆を深める活動やボランティア活動に取り組んでおられます。

編集委員 遠山 厚子



『水明の縁側』

俳句

やまなみ句会

- 秋蒔火星にも風吹いてをり 塩川 正
- 天高く晴れる日を待つ雨つづき 阿部 和
- 身にしむや転んだ先の草むしる 荻原 君江
- 火の山と紫苑の里に育ちけり 榊原 恵
- 大気澄み空のあをさに秋高し 土屋 武子
- 紫苑咲く大きな声で歌ふ会 小栗 富美

短歌

和田短歌会

- 語尾に残る温き言葉を忘れねば 小林 嘉子
- 今日の夕焼空は明るし
- 果てしなき空の深さに背を伸ばす 言葉をもたぬ子とのしあわせ
- 野の道を這へる蔓草紅葉して 星野 節子
- こぼれし種も染まりてをりぬ
- 出張のみやげにもらしい小苗なり 年経し今も石路は咲く
- 冬山に変わりてゆくを仰ぎつつ 遠山 静子
- 二本のポールを頼りに歩く
- 零したる墨跡残る縁にひとり 筆揃へる皺がれし指